

- ・ 個別支援会議の持ち方について整理が行われたことはとても良かった。
- ・ 今までは課題抽出と言って守秘義務等の関係もあり外に話すことができない、報告書にも乗らない状況だった。今年度はしっかりと事例を作ることが大切で、必要に応じて複数の事例を混ぜて検討したい。
- ・ 情報が整理されて相談支援連絡会との連携が明記された事は良かった。個別支援会議は重要だが、なぜ重要なのかの位置付けが明確化された。
- ・ 個別支援会議の事例はどのように選んでいくのか。検討事例の整理も必要。
- ・ 相談支援連絡会でも事例検討を行っているので提出してもらう事も必要。
- ・ 前回の議論や作業部会で整理を行ってもらい、個別支援会議の意味合いが明確化されたのはとても良いと思う。
- ・ パブコメの他に部会として意見を出す場面があったほうが良い。
- ・ 別の部会や相談支援連絡会と共同の事例検討の場面を作る必要もあると思う。
- ・ 自立支援協議会の本会はただ報告する場になってしまい、結果議論する場は専門部会のみになっている。今まで相談支援部会では個別支援会議に時間を割いていたが、昨年までの進め方を継続するのではなく課題を見据え全体にフィードバックできるように進めていきたい。
- ・ 今までの「とりあえず連携が必要だ」ではなく必要に求められている連携を作る義務があると思う。部会のような公的な場面でしっかり議論をして意見を出していく事が大切。
- ・ おおた障がい施策推進プランが来年度更新されるのでそれに向けて、何が必要で何が足りないのかを整理して相談支援部会としての意見をまとめたい。

(2) おおた障がい施策推進プラン進捗状況の確認について

- ・ 平成 30 年からの第 5 期に向けて進捗状況の確認及び意見を集約。
- ・ 第 1 章、第 3 章の一部抜粋について確認を行った。
- ・ 第 1 章事業 1『障がい者総合サポートセンターの運営・充実』の修正として平成 28 年度実績の「人材育成事業 18 回実施→29 回実施」。
- ・ 今年度虐待通報件数が増加傾向にある。障害者虐待通報ダイヤルが広く周知されて来ている証しだと考えている。
- ・ 事業 2『自立支援協議会の活性化』課題の「協議会の円滑な運営に向けた事務局体制の整備」について具体的なものはあるのか。
- ・ 事業 2『自立支援協議会の活性化』今後の取り組みの「ネットワークの立ち上げ支援・強化」について区の考え方を知りたい。専門部会にその機能を持たせるのか。
- 部会として機能を持たせるというよりは、既存のネットワークから来ている人たちを支えたり、連絡会系と連携を図ることに力を入れたい。
- ・ 事業 3『ピアカウンセリングの実施支援』についてピアカウンセリングの手法、専門性について研修でしっかり伝えられているのか。大田区の考え方として当事者やその家族が話を聞くことがピアカウンセリングなのか、専門性を持った当事者が傾聴の姿勢で行うものなのか、整理が必要だと思う。
- カウンセリングという言葉が入っているので本来は専門性が必要だと考え

る。ただし、大田区としては当事者とその家族が話を聞くことをピアカウンセリングと総称している。今後整理が必要と考えられるし、相談員を含む支援者としてもそれを理解し有効活用する必要がある。

・事業7『障がい者差別解消法のための啓発活動の推進』の啓発活動について、地域に対してということであれば、地域に向けた発信を強めてほしい。相談として関わる中で障害者の就労の問題点が多くある。雇用する側の理解啓発も必要ではないか。

→就労で実際に辛い思いをしている当事者がいることは理解している。就労支援センターを中心に企業向けに障害理解の働きかけや相談、サポートを行っている。

・子供に向けた障害理解の活動をどのように行っているのか。

→福祉管理課が担当し、小中学校向けにユニバーサルデザインの普及啓発活動として当事者が学校に話をしに行く場面を作り、福祉教育の推進を図っている。

・事業9『成年後見制度利用支援の充実』について、社会貢献型後見人と法人後見人を一緒に考えないと難しいと考えられる。特に知的障害の人の場合、生活支援も必要になる。後見人がその人の生活状況で何が必要で何が不足しているのか。意思決定支援がしっかり行われたい場面も多々見られる。

→後見人を選べない現状が一つの課題になっている。社会福祉協議会としてその人に合う専門性をもつ候補者を繋ぐお手伝いを行っているが、後見人の候補者全ての人柄を含め細かい情報を把握するのは難しい。

→後見はその人と合うのか、その人が必要なのかをしっかりと見定めないといけない。後見、法人後見や地域の受け皿をしっかりと理解し検討しないといけない。

・事業17『地域活動支援センターの運営支援』について、以前は居場所として地域活動支援センターが使われていたが、最近は就労移行事業所も増えて以前より利用者が減少している。また、新しく来る利用者也センターが最終地点ではなく次に繋げるという流れもできている。

・障害と一言で言っても児童や高齢になり介護保険の利用など、必要な制度は多くある。色々なネットワークが繋がることや個々の勉強も必要だと思う。

・今年初めて参加しているが、前回の意見を踏まえ個別支援会議の考え方などしっかりと整理がされていると思う。精神障害者の家族会なので色々な人たちにも理解を広げていきたい。

○第3回

日時 7月12日(水) 9時30分から12時

場所 さぼーとびあ 5階多目的室